

王将 100年目の新ルール

今回は新ルールを紹介します。元となっているのは1921年にW. B. Seabrookという方が創案したRifle Chessというルールです。これは「居ながらにして利き先の相手駒を消せる」というルールで、「ライフル」で離れた獲物を仕留める様子に見立てた名称です。

このルールの詰将棋への翻案を提案したのが小林看空（神無三郎）氏でした。具体的な内容は以下の通りです。

【ライフル】

駒を取ったとき、取った駒が元の位置に戻る。

(補足)

Rifle Chess の翻案。

本来は「居ながらにして利き先の駒を取れる」であるが、「取った後で元の位置に戻る」とも解釈できる。ここでは成・不成の選択ができるよう後者の解釈を採り、以下の細則に従うものとする

- 1)駒取り時、駒に戻るまでを一手とみなす。駒を取った瞬間だけ「自玉への王手」となったり、「行き所のない駒」になったりしても構わない。
- 2)生駒による駒取りで「現位置」「駒取り地点」のいずれかが可成地域にある場合、成・不成を選択できる。

「居ながらにして利き先の相手駒を取れる」を「相手駒を取って元の位置に戻る」と解釈するのは独自解釈ではありません。実際、このようにRifle Chessのルールが説明される場合があります。これを利用して成・不成の選択を可能にし、表現の幅を広げようというのが、この翻案の狙いです。ルール名が「Rifle」から「ライフル」になっているのも、日本将棋向きの改変が入っていることを示唆しています。

ルールの構造はアンチキルケと同様なので、戻り位置が「実戦初形位置」ではなく「現位置」になったと考えれば理解しやすいでしょう。

では、このルールで何が起きるか実際に見てみましょう。駒を取るときはアンチキルケと同様に、「/」の後に戻り位置と駒種を表記します。

このルールではすべての駒で「居食い」が可能です。しかし、それは良いことばかりではありません。下図をご覧ください。

〔例図1〕駒を取る手が王手にならない

ライフル協力詰 (不詰)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | | 王 | | 一 |
| | | 玉 | | 二 |
| | | 銀 | | 三 |
| | | | | 四 |

持駒 なし

これがただの「協力詰」なら「22銀生 12玉 13金」の3手詰ですが、このルールだと初手が「22銀生/23銀」になるので王手になりません。「22銀成/23全」も同様です。結局本図は金を取れず不詰。「ライフル」は取禁的な性質が強いルールだということが分かります。

〔例図2〕食い逃げしやすい

ライフル協力詰 3手

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | | | 王 | 一 |
| | | | | 二 |
| | | 歩 | | 三 |
| | | 香 | | 四 |

持駒 歩

これは初手22歩成の1手詰ではありません。「同玉/11玉」という、玉が「食い逃げ」する受けがあります。駒に戻るまでを1手とみなすので、駒を取った瞬間だけ自玉への王手になる同玉を指せるのです。

正解は「12歩 21玉 22歩成 まで3手」。これなら「食い逃げ」しようとしても「同玉/21玉」なので香が利いています。

〔例図3〕「居食い」が裏目に出ることもある

ライフル詰 1手

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 3 | 2 | 1 | |
| | | 玉 | 王 | 一 |
| | | | | 二 |
| | | | 歩 | 三 |
| | | | 香 | 四 |

持駒 なし

この図は 12 歩成まで 1 手詰。12 には金が利いていますが、「12 と」を取ると「同金/21 金」で香の利きが玉を直射します。アンチキルケの「北村手筋」と同様の現象が起きるわけです。また、例図 2、3 から想像できると思いますが、「ライフル」では飛び道具（飛角桂香）が非常に有効です。

〔例図 4〕異なる手で同一局面

ライフル協力詰 3手

| | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|
| | | 龍 | 我 | 王 | 一 |
| | | | | | 二 |
| | | | 歩 | 桂 | 三 |
| | | | | | 四 |

持駒 なし

この図を「21 龍/31 龍 12 玉 24 桂 まで 3手」しか読まずに発表すると、余詰作の烙印を押されます。「21 桂生/13 桂 12 玉 24 桂 まで 3手」という詰手順もあるからです。「21 桂生」は一時的に行き所のない駒になる手ですが、このルールでは 13 に戻るまでを一手とみなすので、反則にはなりません。

「ライフル」では「一つの局面から異なる着手で同一の局面に到達することがある」という興味深い現象が起きます。中立駒と PWC を組み合わせたときに起きる例を第 129 回 WFP 作品展（WFP152 号）の前口上で報告しましたが、「ライフル」では頻繁にこの現象が起きます。

〔例図 5〕ピン止めされた駒で駒を取れる

ライフル協力詰 5手

| | | | | | |
|--|--|---|--|---|---|
| | | | | 王 | 一 |
| | | 馬 | | 角 | 二 |
| | | | | | 三 |
| | | | | | 四 |

持駒 なし

最後に「駒を取った瞬間だけ自玉への王手になっても構わない」という性質を合駒に応用した図をご覧ください。「ライフル」は駒を取ると元の位置に戻るなので、ピン止めされた駒でも駒取りができます。解答は本稿末尾に掲載しますので、考えてみてください。

[例図 5 解答]

ライフル協力詰 5手

4 3 2 1



持駒 なし

33 馬 22 桂 同馬/33 馬 22 桂

23 桂 まで 5 手

(詰上り)

4 3 2 1



持駒 なし

☆4 手目 22 桂の代わりに 22 歩とすると、最終手 23 桂に対し「同歩/22 歩」と取ることが出来ます。前に利く合駒はすべて同様に不詰。角は品切れなので桂合限定となります。

「ライフル」ではピン止めされた駒も王手の利き筋の外に動くことができます。居食いを防ぐための限定合はこのルールの花形手筋になる可能性があります。